

JACET Kansai Newsletter

No. 83 June 17, 2019

一般社団法人大学英語教育学会関西支部 (JACET Kansai Chapter)

支部長: 植松 茂男 (同志社大学) (Chapter President: Shigeo UEMATSU, Doshisha University)

事務局: 〒602-8013 京都府京都市上京区烏丸通下立売西入平安女学院大学国際観光学部 香林 綾子研究室内
(Chapter Office: c/o Ayako KOBAYASHI, Faculty of International Tourism, Heian Jogakuin (St. Agnes') University)

URL: <http://www.jacet-kansai.org/> (関西支部へは左の URL からご連絡ください)

巻頭言

新支部長就任のご挨拶

植松 茂男 (同志社大学)

このたび、伝統ある JACET 関西支部長を拝命し、身の引き締まる思いでいます。大学英語教育学会 (JACET) のホームページには、半世紀以上前に東京外大で開催された「第 1 回大学英語教育研究協議会総会」と題したモノクロ記念写真があります。1960 年代から、大学英語教育を改善しようとする大学教員の交流が盛んになったと聞きます。それが JACET 結成のきっかけになったのでしょうか。18 世紀英国文学の大家で、受験生用の名著『英文をいかに読むか』等で現在でも知られる初代会長の朱牟田夏雄先生 (東京大学) などの顔も写っているそうですが、凡庸な私などはこの写真を見て当時の (また私の時代も) 大学の先生が、皆見事に背広にネクタイ姿であったことを懐かしく思い出しました。2018 年度のカラー写真とのコントラスト (の仕掛け) にはいつも感心させられます。

私が大学生の時代 (1976-1980 年) には、まだ教養の 2 年間の英語は「英文学」、「米文学」全盛の時代でありました。1 回生最初の英語の講義は Gordon Ratzlaff 先生 (大阪大学→立命館大学) のご担当でした。テキストは Oscar Wilde の *The Picture of Dorian Gray* で、美青年の主人公を彷彿とさせるラツラフ先生のお姿に、女子学生の視線がうっとり先生ばかり追っていたのを思い出します。「英語学」の講義ですら、専門課程 (私はドイツ文学専攻でしたが) に移った 3 回生次で初めて聴講できたことを覚えています。

大学を卒業してから、地元大阪の府立高校の英語教師として教鞭をとりましたが、ある時英語を専攻していない自分が英語教師であることに疑問を持ち始めました。そこで学び直しを決意して大学院に戻り、大学卒業後 15 年近く経って英語教授法の修士号を取得しました。ちょうどその頃、千里国際学園 (現関西学院千里国際中・高等部) という帰国子女受け入れ校からオファーをいただき、3 年間教鞭を執りましたが、ここで「言語習得論」という素晴らしい研究課題に巡り会いました。

千里国際学園には私の知的好奇心を刺激してやまない、「宝物」のような帰国子女が目の前に沢山いるのですが、あまりの激務 (カウンセリングから諸会議の通訳まで) でしたので、これらの知見を、学術的に記録・考察するための時間が欲しいと思うようになりました。その時ちょうど公募をしていた摂南大学に応募し、1996 年から私の大学教員としてのキャリアがスタートしました。

JACET 関西の会員になったのもその頃だと思いません。緊張しながら初めて学会発表なるものを試みた当時の私にとって、発表後の先生方からの励ましとアドバイスはとても貴重で新鮮なものでした。そのままの勢いで『大学英語教育学会紀要 (現 JACET Journal) 第 28 号』(1997) に投稿したことを覚えています。

生来不器用な私にとって、いくつも学会を掛け持ちすることは至難の業で、日本の英語教育に関しては周囲に奨められた JACET のみ所属を続けてまいりました。殊に JACET 関西では、学識、知見、人格に優れた多くの先生方に出会いました。それらのほとんどは支部研究会、及び関西支部業務を通じて得たものです。

私は 2002 年から 2 期 4 年の研究企画委員を 2009 年まで務め、2011 年から 2 年間は総務幹事の仕事も仰せつかりました。幹事在任中は野口ジュディー津多江支部長 (当時武庫川女子大学) をはじめとした熱意と行動力にあふれる先生方に支えられ、業務を和気藹々とした雰囲気の中でこなすことができたと思います。

中でも 2012 年度秋季大会を、当時の勤務校であった京都産業大学で開催した折には、京都駅から 1 時間近くかかる山上の地にもかかわらず 220 名を上回る方々が参加して下さり、会場校としてとても嬉しかったことを覚えています。これも研究企画委員をはじめとする諸先生方のご努力の賜物と感謝致しました。

その大会で個人的に懐かしく思い出されるのは、運営を手伝ってくれた私のゼミ生への慰労にと、懇親会に参加することを幹事の皆さまがお許し下さったこ

とです。偶っこのテーブルで遠慮しながら食事をして
いたかわいい彼ら・彼女らの笑顔が、とても充実した
学びの一日であったことを物語っていました。

2013年の第52回国際大会にも関わらせていただき
ましたが、開催校京都大学の先生方の、緻密な準備・
運営と見事なおもてなしのパフォーマンスに感心し
た次第です。今でも私が経験した日本の学会の中で、
一番印象的で記憶に鮮やかなものです。

さて、それらのJACET関西にかんするさまざまな
記憶すら、最近の授業や諸業務の忙しさの中で、だん
だん臙気なものになってまいりました。今回、このよ
うな重責を応分に果たせるかどうか自信はございま
せんが、優れた執行部と会員の皆さまのお力添えを得
て精一杯努めて参りますので、どうぞよろしく願い
致します。

■ 今年度のイベント・カレンダー ■

今年度に予定されているJACET関西支部の活動で
す。是非ご予約ください。

日時 (Date)	行事・概要 (Event)
2019/6/22	第1回支部講演会・支部役員会@神戸 国際会館 Kansai Chapter 1st Lecture Meeting / Chapter Board Meeting, Kobe International House
2019/9/30	『JACET Kansai Journal (JACET 関西支 部紀要)』22号投稿原稿締切 The deadline to submit a paper for <i>JACET Kansai Journal</i> No. 22
2019/10/5	第2回支部講演会・支部役員会@同志 社大学 今出川キャンパス (予定) Kansai Chapter 2nd Lecture Meeting / Chapter Board Meeting, Doshisha University, Imadegawa Campus
2019/11/16	支部大会・支部総会@同志社大学今出 川キャンパス Kansai Chapter Conference / Chapter Annual Meeting, Doshisha University, Imadegawa Campus
2020/3/14	第3回支部講演会・支部役員会@関西 学院大学 梅田キャンパス (予定) Kansai Chapter 3rd Lecture Meeting / Chapter Board Meeting, Kwansai Gakuin University, Umeda Campus
2020/3/31	『JACET Kansai Journal (JACET 関西支 部紀要)』22号刊行 Publication of <i>JACET Kansai Journal</i> No. 22

なお、上記イベントは、諸事情により、断りなく日
程・場所・内容等に変更が生じる場合がございます。
最新情報は支部ホームページ
(<http://www.jacet-kansai.org/>)にて随時更新してあり
ますので、ご確認ください。

Please check the Kansai Chapter website for specific
details: <http://www.jacet-kansai.org/>.

■ 2019年度JACET関西支部大会 ■

2019年度の支部大会は、以下の要領で開催されま
す。発表(研究発表、実践報告、ポスター発表、ワー
クショップ、コロキアム)の募集期間は、7月1日(月)
～9月7日(土)です。ふるってご応募ください。

日時：2019年11月16日(日)

場所：同志社大学 今出川キャンパス

大会テーマ：変化の時代を生きる英語教育

基調講演：「英語教育における言語イデオロギーを問
う」

講師：久保田 竜子 先生(ブリティッシュコロンビア
大学)

特別講演1：“Emotions, values, and stories -- Against the
standardization to monetize English Language Teaching”

講師：柳瀬 陽介 先生(京都大学)

特別講演2：「外国語教育政策研究の理論・方法(仮)」

講師：寺沢 拓敬 先生(関西学院大学)

企画シンポジウム：「大規模スピーキングテストの舞
台裏、どこがどう難しいのか?—京都工芸繊維大学の
実践より」

講師：羽藤 由美 先生(京都工芸繊維大学)

神澤 克徳 先生(京都工芸繊維大学)

光永 悠彦 先生(名古屋大学)

*大会テーマに沿って、それぞれのご専門分野につい
てお話しいただきます。

Kansai Chapter 2019 Conference

Call for papers (research papers, practical reports,
poster sessions, workshops, and colloquia) for the Kansai
Chapter 2019 Conference will be from July 1 through
September 7. We look forward to your submissions.

Date: November 16, 2019

Venue: Doshisha University, Imadegawa Campus

Conference Theme: English Language Education in a
Time of Rapid Change

Keynote Lecture: “Questioning Language Ideologies in English Language Teaching”

Lecturer: Prof. Ryuko Kubota (University of British Columbia)

Special Lecture 1: “Emotions, Values, and Stories -- Against the Standardization to Monetize English Language Teaching”

Lecturer: Prof. Yosuke Yanase (Kyoto University)

Special Lecture 2: “Theory and Methodology in Policy Research of Foreign Language Education (provisional)”

Lecturer: Dr. Takunori Terasawa (Kwansei Gakuin University)

Symposium: “Behind the Scenes of Large-scale Speaking Tests. What is the Reality?: A Report from the Practice of Kyoto Institute of Technology”

Lecturers:

Prof. Yumi Hato (Kyoto Institute of Technology),

Dr. Katsunori Kanzawa (Kyoto Institute of Technology),

Dr. Haruhiko Mitsunaga (Nagoya University)

* In accordance with the conference theme, guest lecturers will address the most recent research in their respective areas.

■ 2018 年度第 3 回支部講演会の報告 ■

2018 年度第 3 回支部講演会（教材開発研究会による企画）が、2019 年 3 月 9 日（土）に、関西学院大学梅田キャンパスにて開催されました。37 名の参加者があり、盛況となりました。大阪大学の池田光穂先生に PBL（問題解決型学習）の背景・理念をご紹介いただき、教材開発研究会の先生方からは PBL に基づいて開発された英語教材についてお話を伺いました。学生が主体的に考え協同することを、教師はどのように手助けすることができるかについて考察することができました。

1. 日時：2019 年 3 月 9 日（土）15:30-17:00
2. 場所：関西学院大学 梅田キャンパス
3. 演題：PBL（問題解決型学習）を目指した英語教材開発
4. ゲスト・スピーカー：池田 光穂 先生（大阪大学）
5. 司会・スピーカー：
教材開発研究会 赤尾 美和 先生（近畿大学）
西垣 佐理 先生（近畿大学）
松田 紀子 先生（藍野大学）

The Kansai Chapter Third Lecture Meeting of the 2018 academic year organized by SIG on “Materials Design and Development” was held on Saturday, March 9th, 2019, at Kwansei Gakuin University Umeda Campus with 37

participants. The speakers talked about the background and basic principles behind the PBL (Problem-Based Learning). Ideas for developing effective English teaching materials were also proposed. Participants discussed how teachers can help learners engage in creative and collaborative activities.

1. Date: Saturday, March 9, 2019, 15:30-17:00
2. Venue: Kwansei Gakuin University, Umeda Campus
3. Title: Application of Problem-Based Learning to English Materials
4. Guest speaker: Mitsuhiko IKEDA (Osaka University)
5. MC & Other speakers: The Study Group for Materials Design and Development
Miwa AKAO (Kindai University)
Sari NISHIGAKI (Kindai University)
Noriko MATSUDA (Aino University)

■ 2019 年度第 1 回支部講演会のお知らせ ■

2019 年度第 1 回支部講演会は、下記の通り井佐原均先生による招待講演を予定しております。皆さまのご参加をお待ちしております。詳細は、支部ホームページ (<http://www.jacet-kansai.org/meeting.html>) をご覧ください。

1. 日時：2019 年 6 月 22 日（日）15:30～17:00
2. 会場：神戸国際会館 704 号会議室
（アクセス方法は、<http://www.kih.co.jp/access> でご確認ください。）
3. 演題：ディープラーニングで進化する機械翻訳：何ができて、何ができないか
4. 講師：井佐原 均 先生（豊橋技術科学大学情報メディア基盤センター長・教授）
5. 講演概要：将棋や囲碁などのゲームで人間に勝つようになった人工知能は多言語コミュニケーションにどのように役立つでしょうか。2016 年末に Microsoft や Google がニューラル機械翻訳という新しい人工知能型の自動翻訳システムでのサービスを開始しました。ニューラル機械翻訳システムは人間と同じ程度の翻訳能力を持つと言われていました。この講演で私は機械翻訳システムの技術を紹介するとともに、ゲームに勝つことに比べて、言語を理解することがコンピュータにとって難しい理由を説明します。人工知能型翻訳システムの現状を、実際の翻訳例を用いて、その長所と弱点を示しつつ解説し、機械翻訳の長所を活かして実社会で利用する方法についてお話しします。機械にできることとできないことが明確になれば、機械にできることは機械に任せましょ

う。機械翻訳システムが対応できない分野・場面でのコミュニケーション能力の向上を支援することが、これからの語学教育の役割かもしれません。この講演を通して、そのような方向性が見えてくればと思っております。

6. 参加費：JACET 会員は無料、非会員は 500 円。事前申込不要
7. 使用言語：日本語。質疑応答では英語も可
8. 茶話会：講演会後に茶話会（ノンアルコール、1 時間程度）を予定

The JACET Kansai First Lecture Meeting of this academic year will be held as follows:

1. Date: Sunday, June 22, 2019, 15:30–17:00
2. Venue: Room 704, Kobe International House.
(For details, please see: <http://www.kih.co.jp/access>)
3. Title: Evolving Machine Translation Using Deep Learning: What You Can Do With It
4. Lecturer: Prof. Hitoshi ISAHARA (Toyohashi University of Technology)
5. Abstract: (The following abstract was translated from Japanese to English using a machine translation system.)
6. How does artificial intelligence that came to beat humans in games such as Shogi and Go help multilingual communication? At the end of 2016, Microsoft and Google launched a new artificial intelligence automatic translation system called Neural Machine Translation. Neural machine translation systems are said to have the same level of translation ability as humans. In this talk I will introduce the technology of machine translation systems and explain why it is more difficult for computers to understand language than winning a game. We will explain the current state of the artificial intelligence type translation system using actual translation examples, showing its strengths and weaknesses, and talk about how to use it in the real world by making use of the strengths of machine translation. If it is clear what the machine can and can not do, let the machine do what it can. Helping to improve communication skills in areas and situations where machine translation systems can not cope may be the role of language education in the future. I hope this direction will be visible through this lecture.
7. Fee: JACET member, free; nonmember, ¥500. No need to pre-register.
8. Main language: Japanese for presentation. English & Japanese in the Q&A session.
9. Party: Please join us for a one-hour gathering with

soft drinks and light snacks after the lecture.

■ JACET 第 58 回国際大会のお知らせ ■

2019 年 8 月 28 日（水）から 30 日（金）まで名古屋工業大学にて JACET 第 58 回国際大会が開催されます。皆様のご参加をお待ちしております。

テーマ：「ボーダーレス」の先に変革する社会における英語教育

日程：8 月 28 日（水）～ 8 月 30 日（金）

会場：名古屋工業大学

要旨：「ほんの小さい鍵が重い扉を開けることだつてあるのだ」

(C. ディケンズ 小池・石塚訳『ディケンズ短編集』)

社会の変革とともに発生する力学は教育全般に影響を与える。社会の変化はとりわけ言語教育に大きな影響を及ぼしてきた。経済発展の必然から始まったグローバル化は、現在の世界の常態となり、テクノロジーが急進する世界において、従来の枠組みを決定していた境界線は様々な場面で融解しているように見える。国境を越えた文化の滲出や、学問分野における学際的研究の進展はあらゆる面で「ボーダー」を曖昧にする。そのような世界にあって、英語教育に求められる流動性や柔軟性はどのように捉えられるべきだろうか。伝統と技術革新のせめぎあいから引き起こされる緊張や、学問分野における理論と実践、アカデミズムと現実社会の往来に英語教育はその方向性をどこに見出していくのか。

大学英語教育学会（JACET）第 58 回国際大会（名古屋、2019）は、このような境界の曖昧性が進んだ結果生まれつつある「ボーダーレス」社会の先を見据えた英語教育について考える機会を提供し、目指すべき方向性やその意義について研究者や実践者のためのフォーラムの場としたい。AI ロボットが人間とコミュニケーションするようになり、近未来において、生身の英語教員の意義や役割は何なのか、教室でのテクノロジーの関わりや、コミュニケーションそのものの変容はあるのか。「ボーダーレス」の先にある‘trans’ paradigmatic な世界の中における英語教育は、その小さな部分かもしれない。しかし「ほんの小さい鍵が重い扉を開けることだつてある」のである。

The JACET 58th International Convention

Theme: Beyond ‘Borderless’: English Education in a Changing Society

Date: Wednesday, August 28–Friday, August 30, 2019

Venue: Nagoya Institute of Technology

Abstract: ‘A very little key will open a very heavy door’

(Charles Dickens, 1812-1870)

It is imminent that societal forces in one way or another have an impact on language education in general. In our contemporary society characterized by globalization and technology, there is an increasing movement among the various disciplines, nations, and cultures to transcend borders or boundaries. Under such circumstances, how can we accommodate and understand the fluidity and flexibility required to embrace diversity? How do we account for the tension created as we move from traditions and innovations, theory and practice, and even the academic sphere and business world?

The 58th JACET International Convention (Nagoya, 2019) will provide stimulating forum for researchers and practitioners to collectively rethink the directions and significance of current English language education in a world where the implications of borders and boundaries are controversial. For instance, in an era where AI robots are capable of human-like communication, what will be the role of human teachers? What are the issues and challenges in incorporating technology into our classrooms? Will there be changes in our communicative practices and interactions? The objective of the conference is to gather together to develop and share broad perspectives on English education in order to achieve the educational goals sought in this ‘trans’ paradigmatic world. The heavy door of the future awaits.

■ 紀要編集委員会より ■

『JACET 関西紀要』第 21 号を平成 31 年 3 月末までに会員の皆さまにお届けいたしました。今号の招待論文として、2018 年度第 1 回支部講演会で講師をお務めくださいました岩井千秋先生にご寄稿いただきました。そのほか、研究論文 1 本、研究ノート 1 本を掲載しております。ご投稿いただきました皆さま、また、ご協力いただきました査読委員の先生方に、紀要編集委員会一同心より御礼申し上げます。

令和元年 7 月 1 日より、第 22 号の投稿受付を開始いたします。既にお知らせのように、第 21 号より投稿原稿の種別とページ数を変更しております。研究論文は 20 ページ以内、研究ノートは 10 ページ以内、そして、実践報告は 6 ページ以内となっております。実践報告は、投稿締切日より 1 年以内の JACET 関西支

部大会や JACET 国際大会での発表、そして、支部研究会での活動に基づいた報告に限りますが、査読なし（校閲のみ）です。残念ながら、第 21 号での掲載はございませんでしたので、皆さまの積極的なご投稿をお願い申し上げます。

詳細は 6 月末までに支部ホームページ及びメールでお知らせいたします。支部紀要を通じて、日頃の研究・実践の成果についてぜひ共有させていただきたく、ご応募をお待ちしております。

The JACET Kansai Journal (JKJ) Editorial Committee announced the publication of *JKJ* No. 21, which was delivered to JACET Kansai members at the end of March 2019. This issue contains one “Invited Paper,” contributed by Prof. Chiaki IWAI who presented at the JACET Kansai Chapter’s first lecture meeting last year, as well as one “Research Paper” and one “Research Note.” The Editorial Committee would like to express its sincere gratitude to the reviewers, who devoted much time and effort to the reviewing process, and of course to the contributors.

We welcome your submissions for the next issue, *JKJ* No. 22, for which online registrations will begin on July 1st, 2019. As previously announced, we have adopted revised Submission Guidelines to *JKJ* No. 21. According to them, “Research Papers” should be no longer than 20 pages, “Research Notes” should be no longer than 10 pages, and “Practitioner Reports” should be no longer than six pages. Regarding “Practitioner Reports,” of which none were published in *JKJ* No. 21, they are no longer subject to peer review, although submissions must be based on the content of an oral or poster presentation at either a JACET Kansai Chapter Convention or a JACET International Convention made within one year prior to the submission deadline. We will also accept reports on activities of JACET Kansai SIGs occurring within one year prior to the submission deadline. We are looking forward to your submission of “Practitioner Reports.”

The guidelines and requirements for submission procedures are available at the end of *JKJ* No. 21, and you will receive the details from the website and via email of the JACET Kansai Chapter by the end of June.

■ 事務局より ■

Messages from Kansai Chapter

4 月 1 日より、支部事務局が平安女学院大学香林綾子研究室に移りました。1 年間どうぞよろしくお願ひ申し上げます。連絡先は本ニューズレターの冒頭をご

覧ください。

このたび、関西支部より岡田伸夫先生（関西外国語大学）が新たに JACET 顧問になられました。ここに、先生の永年のご功績やご尽力に敬意を表し、心よりお祝い申し上げます。

本年度の体制は、植松支部長、高橋副支部長、照井副支部長を中心として、総務幹事を香林・今野勝幸先生、財務幹事を宇佐美彰規先生・三木浩平先生、紀要幹事を坂本輝世先生・妹尾智美先生、広報幹事を西美都子先生・鎌倉義士先生が務めます。この新体制で協力し合いながら、支部の活動を会員の皆様にとって有意義で、魅力的なものにしていきたいと考えております。

本年度の研究企画委員会の体制として、委員長を松田紀子先生、副委員長を赤尾美和先生、原田洋子先生、細越響子先生、村尾純子先生、内山八郎先生がご担当されることになりました。心強い布陣で支部大会を盛り上げてまいります。皆様のあたたかいご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

2018 年度でご退任なさった先生方から、以下のメッセージをいただきましたので、ご紹介いたします（本部の理事である石川慎一郎先生、小栗裕子先生の任期は、2019 年 6 月の社員総会までとなります）。これまで支部のためにご尽力いただき、誠にありがとうございました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

■ 退任のご挨拶 ■

Messages from Kansai Chapter Officers Completing Their Term of Office

◎ 旧理事：石川 慎一郎 先生（神戸大学）

思いがけず理事のお話をいただいた時、3つの目標を立てました。1つ目は「嫌な顔をされても言いたいことは言う」こと。2つ目は「関西支部の予算の増額につながるよう声を上げる」こと。3つ目は、個人的な持論なのですが、「JACET を応用言語学会に改組すべきだ」という意見を理事会に届ける」ことです。JACET は想像以上に大きな組織で、理事 1 人がなにか言ったぐらいで急に変わるものではありませんが、任期を通して、とりあえず、3つの目標だけは達成しました。この間、色々とお世話になり、ありがとうございました。

◎ 旧支部長：小栗 裕子 先生（関西外国語大学）

支部運営のために 4 年間本当にたくさんの先生方に支えていただきました。ここに心よりお礼申し上げます。特に 4 年間紀要の編集長としてご尽力くださった新田香織先生、この 1 年間事務局幹事として力を注いでくださった石川圭一先生、そして、いつも運営を温かく見守ってくださった前支部長の野口ジュ

ディー先生にも感謝申し上げます。来年の国際大会は関西で開催予定ですが、少しでも多くの参加者がありますようお願いしております。

◎ 旧副支部長 藤澤 良行 先生（大阪樟蔭女子大学）

JACET でほとんど活躍をしていない私に、小栗裕子先生から総務幹事を引き受けてもらえないかとお電話をいただいてから数年経ちました。関西支部の総務幹事 2 年（うち事務局を 1 年）、副支部長 2 年と計 4 年間支部長の小栗先生を支える執行部で大変お世話になりました。たくさんの先生方と知り合いになれたのは私の一生の財産です。来年度は関西支部が国際大会の担当になりますね。微力ながらお手伝いできれば幸いです。

◎ 旧副支部長：新田 香織 先生（近畿大学）

研究企画委員、紀要編集委員そして 2015 年度から委員長として JACET 関西のみなさまと約 11 年を楽しく過ごさせていただきました。実に有意義で実りの多い経験をプレゼントいただいたと感謝しております。年を経るに従い、当然年下の先生方が多くなるのですが、よくぞこんなに優秀でしかもお人柄の良い方々がいるものだと思いに感動しております。今後とも、関西パワーを発揮しつつ、楽しい時間を共有されますことを祈念しております。

◎ 旧総務幹事：石川 圭一 先生（関西学院大学）

2017-2018 年度の 2 年間、総務幹事を務めさせていただきました。幹事の仕事は初めてでしたので、支部長・副支部長・幹事の先生方をはじめ、多くの先生方のご助言とご協力を得て、進めることができました。2018 年度の支部大会を、秋に、関西学院大学上ヶ原キャンパスで開催させて頂いたことは良き思い出となっております。大会の企画と運営に携って下さいました研究企画委員の先生方には、改めて御礼申し上げます。JACET 関西支部の益々の発展を祈念いたします。

◎ 旧財務幹事：中西 のり子 先生（神戸学院大学）

2012 年度から研究企画委員、研究企画副委員長としてお世話になりました。2017 年度からは財務幹事として 2 年間担当させていただき、支部幹事・研究企画委員の先生方をはじめ、多くの方々にお世話になりました。特に、財務副幹事の年には宇佐美先生が決め細やかなご指導くださり、大変感謝しています。JACET 関西支部の先生方とご一緒させていただいたことを大変幸せに思います。ありがとうございました。2020 年度の国際大会もご盛会をお祈りしています。

◎ 旧財務幹事：照井 雅子 先生（近畿大学）

副幹事を1年間担当させていただき、正幹事の中西先生はじめ多くの方々に大変お世話になりました。もう1年担当する予定でしたが、支部長より副支部長を仰せつかり、至りませんが大役を務めさせていただくことになりました。及ばずながら、高橋副支部長、支部幹事、紀要編集委員、研究企画委員の先生方と一緒に支部長をお支えしたいと存じます。素晴らしい先生方と一緒にさせていただいておりますことに感謝申し上げます。

◎ 旧紀要幹事：住吉 誠 先生（関西学院大学）

幹事として紀要の作成に携わりながら、多くのことを学ばせていただきました。本当にありがたく思っております。幹事としては力不足でございましたが、編集委員長の新田先生と編集委員の先生方の温かいサポートのおかげでなんとか2年間無事に幹事を務めることができました。至らぬ点多々あったかと存じます。この場を借りてお詫び申し上げます。紀要の刊行は、執筆者の先生方、賛助会員のみならず、印刷所の方、編集委員の先生方など多くの関係の方々のご尽力があったことであると改めて痛感しております。今後もJACET関西支部のさらなる発展を願っております。引き続きよろしくお願い申し上げます。

◎ 旧広報幹事：三木 浩平 先生（追手門学院大学）

広報幹事として二年間大変お世話になりました。当初は慣れない作業などもありましたが、周りの先生方からいろいろと教えていただきながら、頑張ることができました。多くの先生方と一緒に仕事をさせていただく中で多くの学びがあり、役員をさせていただいたことは非常に貴重な経験となりました。深く感謝申し上げます。今年度からは財務副幹事としてお世話になりますが、JACET関西支部の発展に少しでも貢献できるように努めて参ります。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

◎ 旧研究企画委員委員長：羽藤 由美 先生（京都工芸繊維大学）

支部大会が年2回から1回に変更された初年度でしたが、研究企画委員を中心に役員がたの協力も得て、有意義な会にすることができました。今後の支部大会がさらに充実したものになるよう期待しています。

2018 was the first year the Kansai Chapter Conference was held only once in the year, and the conference organizing team, with the help of other chapter officers, successfully completed our task. I sincerely hope that future chapter conferences will be even more meaningful to JACET Kansai members.

◎ 旧研究企画委員副委員長：松田 紀子 先生（近畿大学）

2017年から2年間、研究企画委員会の副委員長として研究企画委員の先生方、支部長をはじめ幹事の先生方には大変お世話になりました。委員長をされた時岡先生と羽藤先生、副委員長の先生方、そして委員の先生方お一人おひとりのお力が素晴らしく、学ぶことが多い日々でした。今年は委員長をおおせつかり、身の引き締まる思いですが、優秀な先生方と一緒にできる幸運を楽しみながら頑張りたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

◎ 旧研究企画委員副委員長：仁科 恭徳 先生（神戸学院大学）

2016年度より3年間、研究企画委員としてお世話になりました。2018年度は副委員長を務めさせていただきました。至らぬ点多々あったかと思いますが、皆さまのご尽力あって、支部大会を成功裏に終えることができました。心から感謝もうしあげます。あと1年、研究企画委員としての任期が残っておりますので、最後まで少しでも貢献できますよう努めていく所存です。引き続き、どうぞよろしくお願い致します。

◎ 旧研究企画委員副委員長：表谷 純子 先生（神戸学院大学）

2018度は研究企画副委員長を担当させていただきました。研究企画委員長の羽藤先生はじめ、皆さまに大変お世話になり、支部大会の企画・運営について多くを学ばせていただきました。心より感謝申し上げます。2019年度も研究企画委員として支部大会に携わる機会を頂戴しております。JACET関西支部の発展に少しでも貢献できますよう努めて参りますので、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

◎ 旧研究企画委員副委員長：吉村 征洋 先生（摂南大学）

紀要幹事として2年間、研究企画委員として2年間お世話になりました。研究企画委員のお仕事では、たくさん先生方と一緒に支部大会の準備・運営に携わることができました。私にとってJACET関西は、色々な先生方と交流する中で、耳学問を通じてたくさんことを学び、貴重な経験をさせてもらった場所でした。この場を借りて感謝申し上げます。また学会等で先生方と再会できるのを楽しみにしております。

◎ 旧関西支部紀要編集委員：吉村 俊子 先生（花園大学）

紀要編集委員に2期4年間携わらせて頂きました。在任中は皆様からのご指導とご協力によりまして多くを学ばせて頂き、心より御礼申し上げます。特に、

新田編集委員長をはじめ編集委員の先生方には、温かいサポートを頂きながら大変貴重な経験をさせて頂きましたことを感謝しております。この経験を人生の糧とし、心新たに歩んで参りたいと思います。今後のJACET 関西支部のますますのご発展をお祈り申し上げます。有り難うございました。

◎ 旧関西支部紀要編集委員：深山 晶子 先生（大阪工業大学）

ピンチヒッターとして1年間紀要委員を担当させて頂きました。もっと多数の先生に紀要に投稿していただくことができるように、また紀要委員になる先生方のご負担が少しでも省けるようにということを目指して紀要の在り方を再考したいという、紀要委員長の新田先生の熱意に巻き込まれあつという間の1年でした。紀要委員の先生方と議論し合ったことは大変刺激的な経験となりました。関西支部紀要がますます充実することを祈念しております。

■ 会員情報の変更 ■

支部会員向けの各種案内の配送やメール・リストによる情報の配信に使用いたしますので、会員情報（住所、メールアドレス、所属、電話番号等）が変わられた方は、**必ず**ご連絡ください。なお、関西支部では名簿の作成・管理は行っておりません。**会員情報の変更のご連絡は、本部事務局（jacet@zb3.so-net.ne.jp）までお願いいたします。**

Please immediately report any changes in your address, affiliation, e-mail address, telephone numbers, and other information to the **JACET Main Office** (jacet@zb3.so-net.ne.jp).